

昭和電工株式会社 2019年1Q 決算説明会 Q&A 要旨

日時：2019年5月9日（木）18:00～19:00

説明者：取締役執行役員 CFO 竹内 元浩

* 内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 現時点で上期予想に対する各セグメントの進捗をどう見ているか。

A 無機セグメントは計画並み、石油化学セグメントは強含み、エレクトロニクスセグメントは弱含みを想定。しかし、HD 出荷は1Qで底打ちし、今後着実に回復する見込み。

Q 棚卸資産が昨年末比185億円増加した要因は。

A 主に黒鉛電極および原料NCの在庫単価が上昇したため。

Q 1Q営業利益の調整額が▲8億円と前年同期比17億円改善した要因は。

A 新中計が始動し本年から本部スタッフ費のセグメントへの配賦基準を変更したため。

Q SAP S/4HANA 導入費用の40億円は当社規模の企業としては相当割安ではないか。

A. SAP S/4HANAは、2020年1月からSDK単体へ導入していく。40億円は単体部分の投資額である。海外グループ会社への展開は別途逐次実施していく。

【石油化学セグメント】

Q 1Qのナフサ受払差・大型定修要因はどの程度であったか。

A セグメント全体の営業利益の増益幅は6億円であったが、オレフィンは約5億円の減益であった。主な内訳は昨年実施した大型定修が今年なかったことで+30億円、ナフサ要因▲20億円、C4留分と分解ガソリンの市況低下に伴うスプレッド要因▲20億円であった。有機化学品、サンアロマーは前年同期比それぞれ増益となった。

【化学品セグメント】

（電子材料用高純度ガス）

Q 出荷品目の構成差とは具体的には何か。

A 前年同期比で出荷量に変化はないが、IT業界の調整を受け相対的に高価なガスの出荷量が減少したため。下期に回復を見込んでいる。

【エレクトロニクスセグメント】

Q HD・SiCエピタキシャルウェハーの動向は。

A HDの出荷は1Qで底打ちし、2Qから大型データセンター向けHDD用メディアの出荷が増加している。SiCは数量増も開発費が若干増加した。

（HD）

Q 次世代メディアであるMAMR向けの出荷状況は。

A MAMR向けの本格出荷は本年末頃から見込んでいる。

【無機セグメント】

（黒鉛電極）

Q 米中貿易摩擦や欧州の景気減速が言われているが、地域別に黒鉛電極需要に変化はないか。

A 地域別に見ると、中国はHP中心に需給軟化はあるが、日本を含む東アジアと米国の需要は堅調。中国市場では当社の高品質UHPはほぼ影響を受けておらず、また中国拠点はグループ全体の中では構成比が小さい。欧州は景気減速の影響を受けているが、総じて今後の見方に変更はない。

Q 1Qの黒鉛電極の販売価格と原料NC価格は。また、下期の販売価格をどう見ているか。

A 1Qの欧米向け販売価格は2017年比5倍程度と年初想定通りとなった。また、東アジア向け4～9月の販売価格は2018年下期価格の5～10%程度上昇で決まった。NCの価格は期初計画通り2017年比6倍程度で決定した。なお、下期の欧米向け価格交渉はこれからなので現時点ではコメントできない。当社の需給関係の見方は東アジアや米国における旺盛な需要を受けており、現時点で期初予想から変更はない。

【アルミニウムセグメント】

（アルミ缶）

Q ベトナムのアルミ缶製造拠点の投資の利益効果はいつから顕現するのか。

A 徐々に増産効果として出てくる。ベトナムのビール缶需要は毎年着実に伸びており今後も販売増加が確実に見込めるため、今回第3工場の新設投資を意思決定した。

以上

* 本資料の将来見直し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

・経済情勢、ナフサ等原材料単価、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート

・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2019年5月9日発表の弊社決算短信をご参照ください。